

2022年11月1日



報道関係者各位

こども防災協会

ボディボードで波のパワーを体感。

【なみのぼうけん】を開催しました！

2022年9月3日(土)～4日(日)【いわき海浜自然の家】

「こども防災協会」は小学生と留学生ボランティアの方々と一緒に、「いざという時、生きのびる(72時間)こどもを増やすこと」・「さまざまな国の文化や習慣に触れ、共生の感覚を持つこどもを育てること」を目的として、「なみのぼうけん」を開催いたしました。このイベントは、次世代へ豊かで美しい海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる「日本財団「海と日本プロジェクト」」の一環で実施しています。



イベント概要

イベント名:ネイチャーぼうけん&防災キャンプ【なみのぼうけん】

日程:2022年9月3日(土)～4日(日)

場所:いわき海浜自然の家

参加人数:合計108名

参加者内訳: こども83名(小学生、内 被災経験世帯34名) / ボランティア18名 / スタッフ4名 / バス運転手3名)

ボランティア出身国: 全14カ国(パキスタン・インドネシア・ネパール・ブータン・イラン・香港・アイルランド・バングラディッシュ・ミャンマー・ベトナム・中国・アメリカ・マレーシア・インド)

ボディボード

ボードの上に腹ばいになり、波に乗るボディボード。泳ぎに自信がある子でも、最初は海の中でなかなか波に乗れず、失敗を繰り返していました。ボランティアの補助のもとで、波のくる場所や乗れる場所を徐々に理解していきます。「やった！乗れた！」とうまく波をつかんだ子には、周りからも大きな歓声が。波打ち際まで一気に進むことができた子も、とても誇らしそうな様子でした。一見穏やかな海でも離岸流に気をつけなければいけないこと、外から見た波よりも入水した時の波の体感をはるかに大きいことなどを、身をもって体感できたようです。事前にしっかり話を聞いてからのぞむことで、海に対する知識や、実際に波に乗る練習は「命に関わる大事なこと」なのだ意識づけができます。「遊び」から「学び」へ、意識を切り替えてくれた様子が印象的でした。



うみべのレスキューゲーム

全部で4つのブースに分けて行うサーキット形式で行いました。ボランティアたちは積極的にルール説明や進行をサポート。水難者役のボランティアをどう助けるか、というブースでは、浮くものを探す一生懸命な姿が見られました。投げやすいように重りを足すこと、また周りの人を巻き込んで引き上げることを学びました。そのほか、津波の速さを体感したり、波から逃げる時のポイントなど多くの学びがあったようです。安全面を考慮して、海の代わりに、芝生の広場で実施しましたが「ここが海だとしてやるってことね！」と、こどもたちは想像力をフル回転させて取り組んでいました。



参加した子ども・保護者からの声

「ボディボードで波にうまく乗れると、一気に前に進んだのでびっくりしました！波のちからがとても強かったです。」
「津波役のボランティアさんから、走って逃げる練習をしました。結構早かったので、本当の津波が追いかけてくると想像したら怖かったです。」

<団体概要>

団体名称 : 子ども防災協会

URL : <http://kodomo-bousai.net/>

活動内容 : 防災に役立つ判断力と行動力を学べる「子ども防災キャンプ」を実施しています。キャンプには、留学生ボランティアも多数参加。さまざまな国の文化や習慣に触れながら、災害に関わる英語も一緒に学ぶことができます。



日本財団「海と日本プロジェクト」

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

<https://uminohi.jp/>

<お問い合わせ先>

団体名: 子ども防災協会

担当者名: 鹿島 美織

電話: 090-6684-9696

メールアドレス: volunteer@kodomo-bousai.net